

# 令和5年度 教育行政点検評価シート

## 《令和4年度の努力目標（取組事業）》

教育総務課・学校施設室	1ページ から 2ページ
学校教育課（給食センターを含む）	3ページ から 6ページ
文化財課	7ページ から 8ページ
上野図書館	9ページ から10ページ
生涯学習課（中央公民館含む）	11ページ から13ページ
教育集会所	14ページ から

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和4年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見
					令和4年度実績値	令和4年度目標値				
教育総務課	子どもたちが、安心して学べる	1	校区再編事業の推進	上野南部地区小学校再編計画	* 令和5年4月の上野南小学校開校に向けて、依那古小学校、神戸小学校、比自岐小学校の統合協議を行い、校歌、校章の作成、児童の通学方法等の検討した。また、校舎改修工事(建築、電気設備、機械設備等)及び備品整備等を行った。 R4年度中 検討協議会2回開催(計8回)をを行った。	進捗率:100%	進捗率:100%	262,703	完了	校舎改修工事、バスルート等の協議、備品移転業務委託、児童の交流事業などを行い、令和5年4月からの開校準備を3月末までに完了した。
		2	学校施設整備事業等の推進	緑ヶ丘中学校施設改修工事	* 普通教室棟 内部建具改修工事を行った。	進捗率:100%	進捗率:100%	46,214	完了	普通教室他教室22室の廊下側間仕切りをスクールパーテーションに改修し、令和4年10月末までに完了した。
				久米小学校施設改修工事	* 屋内運動場 大規模改造工事を行った。	進捗率:100%	進捗率:100%	109,948	完了	屋内運動場の内外装改修工事及び工事監理業務委託を行い、令和4年11月末までに完了した。
				学校施設非構造部材耐震点検	* 非構造部材の危険性を把握するため、劣化状況や取付工法などの確認を行った。	進捗率:100%	進捗率:100%	8,283	完了	市内小中学校の非構造部材耐震点検業務委託により、非構造部材の劣化状況や取付工法の確認を行い、令和5年3月末までに完了した。
		3	GIGAスクール構想の推進	GIGA端末保守サポート業務	* 国が進めるGIGAスクール構想に対応するため小中学校に整備した学習用端末、ソフトウェア、モバイルWi-Fiルーターを活用し学習支援を行った。	進捗率:100%	進捗率:100%	45,528	継続	各学校でスムーズに活用できるようヘルプデスク、アップデート等運用サポートを行った。モバイルルーターを活用し、持ち帰り学習、Wi-Fi環境のない教室等での学習を支援した。 端末の物損が多くみられ、物損保証で対応しているが、保証終了後の修繕について検討が必要である。

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和4年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見
					令和4年度実績値	令和4年度目標値				
	4	修学の支援等	奨学金支給	* 高等教育機関での教育機会を支援し、社会に貢献する人材を育成するため、奨学金を希望する高校生及び大学生等に支給した。 伊賀市奨学金：(新規)31人 (継続)61人 伊賀市同和奨学金：(新規)18人 (継続)13人 伊賀市ササユリ奨学金 (新規)2人 (継続)6人	伊賀市・同和奨学金の中退者を除く 受給率：100%	伊賀市・同和奨学金の中退者を除く 受給率：100%	12,435	改善	伊賀市・同和奨学金の統合への検討を開始している。新制度が定まるまでは現状のまま継続する。 より多くに人が受給できるよう制度の周知方法を工夫する必要がある。	
			中学校クラブ遠征参加補助	* 三重県中学校体育連盟等が主催する体育大会及び三重県中学校吹奏楽連盟等が主催する文化行事への参加旅費を補助し、部活動の推進を図った。 体育大会参加校 10校 文化行事参加校 7校	参加者負担に対する補助割合：92%	参加者負担に対する補助割合：90%	4,785	継続	現状のまま継続予定であるが、部活動の地域移行の進捗状況とあわせて、補助のあり方を見直していく必要がある。	

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和4年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見
					令和4年度実績値	令和4年度目標値				
学校教育課	子どもたちが、未来に夢や希望を持てる	1	創造的で活力ある学校、地域とともにある学校づくり	地域とともに学校マニフェスト推進事業	* 各小中学校(園)に設置した学校運営協議会の活動を充実させ、家庭や地域と連携し、地域や社会に開かれた学校づくりを推進した。 * 学校運営協議会の運営により、保護者と地域住民等の学校運営への参画を促し、学校、保護者、地域住民が一体となって心豊かで健やかな子どもたちの育成を図った。 * 学校支援地域本部事業を推進し、学校と地域が一体となって子どもたちを育て、地域とともにある学校づくりを進めた。 * 学力向上推進事業、人権同和教育研究事業、キャリア形成事業の三事業を実施し、各小中学校長が作成する「学校マニフェスト」の実現を図った。	設置者による評価値 小中学校 82.7点 幼稚園 88.0点	設置者による評価値 小中学校 85.0点 幼稚園 85.0点	13,147	継続	今後さらに各学校(園)から情報を積極的に発信し、保護者や地域に理解や協力を求める必要がある。コロナ禍において保護者等が集まる機会をなかなか持てない状況であったが、今後は対面での行事等の実施も見込まれるので、そうした機会を効果的に活用していく。
		21	創造的で活力ある園づくりの推進		市民の意見を取り入れて学校改善を行っていると感じている保護者の割合:90.6%	市民の意見を取り入れて学校改善を行っていると感じている保護者の割合:90%				
		2	確かな学力の形成	学力向上推進事業	* 各小中学校で学力向上アクションプランを作成し、計画・実行・評価・改善のサイクルの定着に努めた。 * 中学校1年生で標準学力検査を実施した。 * 学力向上アドバイザーを各小中学校に派遣した。 * 学力向上支援事業(市費)の充実に努めた。 * 「家庭学習・読書のすすめ」を作成し、各小中学校に配付した。 * 全国学力・学習状況調査(国費)、みえスタディ・チェック(県費)を実施した。 * 一人一台端末をはじめICT機器を効果的に活用した授業づくりに取り組んだ。	全国学力・学習状況調査 市内小中学校の平均点の全国比 小学校:101.6 中学校:97.7	全国学力・学習状況調査 市内小中学校の平均点の全国比 小学校:105.0 中学校:100.0	5,383	継続	小学校、中学校とも目標値には至らなかったが、伊賀市の児童生徒は、概ね全国平均の学力を身につけていると言える。学力の向上は、児童生徒、保護者、地域の願いであり、最重要課題の1つである。今後も課題分析と、その解決に向け、学校、教育委員会が取組を進める。
		22	生活体験に即し、興味や欲求を生かした適切な指導							
				教職員研究研修経費	* 部会別教育研究活動の充実を図った。 * 夏季教育講演会を開催した。 * 研究指定校研究推進事業の充実を図った。(成和西小・緑ヶ丘中他)4校 * 一人一台端末を活用した授業づくりについての教職員研修を実施した。	研修講座への参加人数 参加者数:1110人	研修講座への参加者数:1,500人	3,307	継続	経験の少ない若手教員の割合が増加していることから、指導力の向上が課題であり、今後も充実を図りたい。
		3	人権・同和教育の積極的な推進及び差別解消に取り組む実践的な人間の育成	人権同和教育推進事業	* 伊賀市人権同和教育基本方針に基づいた研究テーマを設定し、人権・同和教育の研究と実践を行った。 * 幼稚園・小中学校全教職員で学校人権・同和教育部会を組織し、全市的に人権・同和教育の研究と推進を行った。	人権・同和教育の推進(人権教育カリキュラムの見直し)を「十分図れた」「図れた」学校数:29校	人権・同和教育の推進(人権教育カリキュラムの見直し)を「十分図れた」「図れた」学校数:29校			
		24	人権・同和教育の推進			学校(園)の教職員の人権のつどい・研修会・地区懇談会等参加回数:3.9回	学校(園)の教職員の人権のつどい・研修会・地区懇談会等参加回数:5回以上	3,050	継続	児童生徒が関わる人権侵害(差別事象)の現状は、減少しているものの、障がいや外国人に対する差別発言があった。今後も地域や家庭、様々な関係機関と連携しながら、取組を進めていく必要がある。

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和4年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見
					令和4年度実績値	令和4年度目標値				
学校教育課	子どもたちが、未来に夢や希望を持てる	4	キャリア教育の推進	キャリア教育推進事業	*「自分発見！中学生・地域ふれあい事業」において、全10中学校で職場体験活動を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、5中学校のみ実施した。実施できなかった5中学校については、その内容を補うものとして、地元の企業からゲストティーチャーを招聘したりして、将来の夢や職業、働くこと等、自分の生き方について考える活動に取り組んだ。 * 小学校段階からの教育活動全体を通じた組織的・継続的な取組を推進した。(「キャリア・パスポート」の活用) * 各学校における発達段階に応じた教育課程のあり方を研究した。 * 「伊賀市キャリア教育研修会」を開催し、キャリア・パスポート実践研究から、地域に根ざした小・中・高が連携したキャリア教育の在り方について、専門家を講師にむかえ研修し、小中連携の意義を再確認した。	「自分の生き方や進路を深く見つめることが出来た」と回答した生徒の割合: 73.5%	「自分の生き方や進路を深く見つめることが出来た」と回答した生徒の割合: 90%	2,394	継続	コロナ禍の影響により中学校10校中5校で職場体験活動を中止せざるを得なかった。各校の工夫によって、生き方学習や進路学習を推進した。今後も、児童生徒が自らがキャリアビジョンを持てるようキャリア教育を充実させていく。
		7 ・ 23	生徒指導の充実及び健全な児童生徒の育成 ・ 豊かな情操の芽生えと望ましい生活習慣の育成	生徒指導推進事業	* 各学校において家庭訪問、巡視・補導、関連機関との連携・対応、捜査活動等の生徒指導活動に取り組むとともに、教育相談体制・生徒指導体制を整備し、教育相談員等と連携しながら問題行動の早期発見・早期の対応や未然防止に取り組んだ。 * スクール・ソーシャル・ワーカーを2名配置し、学校からの要望に基づいて、家庭支援や制度利用支援を行った。 * 全小中学校で学級満足度調査(Q-U調査)を実施し、調査の方法・活用等の理解を図った。 * 全学校にいじめ問題相談員を配置し、地域においてもいじめ問題に相談できる体制を作った。	小中学校における問題行動発生件数: 21件	小中学校における問題行動発生件数: 0件	2,476	継続	関係機関との連携を強化しながら、問題行動への対処にとどまらず、未然防止に向けた取組を進める。
		8 ・ 28 ・ 29	不登校児童生徒への理解と社会的自立に向けた支援の推進 ・ 教育相談の実施 ・ 不登校児童生徒の支援	不登校児童生徒支援事業	* 伊賀市教育研究センター(ふれあい教室)で、不登校児童生徒に対する適応指導活動、児童・生徒及び保護者との教育相談活動を実施した。 * 不登校の実態把握、教育相談に関わる教職員研修を実施した。	不登校児童生徒の好ましい状況変化の割合: 81.6%	不登校児童生徒の好ましい状況変化の割合: 100%	3,147	継続	関係機関と連携しながら、きめ細かい取組を進めるとともに、教育相談の充実を図る。
		10	子どもたちの安全・安心の確保	教育振興一般経費	* 教育活動サポーターの配置、自転車ヘルメットの配付・「子どもSOSの家」旗及び注意喚起看板等の購入により、児童生徒の安全を確保するように努めた。	登下校中の小中学生の交通事故発生件数: 9件	登下校中の小中学生の交通事故発生件数: 0件	2,153	継続	児童生徒の安全の確保に向け、今後も関係機関及び地域の協力を得ながら取組を進めていく。

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和4年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見
					令和4年度実績値	令和4年度目標値				
学校教育課	子どもたちが、未来に夢や希望を持てる	11 ・ 26	特別支援教育の充実  個別の支援を要する幼児についての深い理解と実態に即した適切な指導	特別支援教育充実事業  * 教育支援員、特別支援教育支援員を配置し、児童生徒のニーズにあった支援を行う体制を作った。 * 児童生徒の正しい理解のために専門機関による巡回相談を実施し、適切な支援につなげた。	教育支援員・特別支援教育支援員配置:57人	教育支援員・特別支援教育支援員配置:50人	2,284	継続	特別な支援を必要とする児童生徒の教育的ニーズは、年々多様化している。一人ひとりのニーズに応えられるよう、よりきめ細かな支援を行うことが今後増々必要である。	
		13	外国人児童生徒に対する教育の充実と多文化共生教育の推進	外国人児童生徒支援事業  * 初期適応指導教室(チャレンジ教室)の運営を行った。 * 「外国人児童生徒と保護者のための進路ガイダンス」を実施した。 * 日本語指導者研修会の開催した。 * 外国人児童生徒日本語指導補助員を配置した。 * 日本語指導コーディネーターを派遣した。 * 外国語通訳を派遣した。 * 外国人児童生徒の学習支援(漢字検定補助)を行った。	・日本語指導が必要な外国人生徒の高校進学率:94.9% ・漢字検定 外国人児童生徒の受検率58.3%	日本語指導が必要な外国人生徒の高校進学率:90% 漢字検定 外国人児童生徒の受検率:60%	5,407	継続	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、進路ガイダンスは昨年度に続き規模を縮小しての開催となった。しかし、外国につながるを持つ児童生徒の割合は多く、今後も進路保障を見据えた様々な取組が必要である。	
		14	外国語教育の推進	英語指導助手招へい経費  * JETプログラム事業におけるALTを各中学校へ派遣した。 * 直接任用による外国語活動指導助手を各小学校への派遣した。 * 小学校外国語指導者研修会を実施した。 * 「英語力向上プロジェクト」(英語検定補助)を実施した。	・中学校1クラスあたりのALT派遣日数:約8.9日 ・中学3年生における英語検定3級以上合格率37.1%	中学校1クラスあたりのALT派遣日数:約8.2日 中学3年生における英語検定3級以上合格率:35%	3,315	継続	小学校5・6年生の外国語科の実施、中学校の英語教育の充実に向けた課題など、事業のニーズはさらに高まっていると考えている。	
		27	教育研究の推進充実	教育研究センター管理運営費  * 教育研究センターの管理運営を行った。 ・学校教育及び社会教育関係者の研修会等を開催した。 ・教職員、学校、地域の連携の支援に努めた。	会議室使用延べ人数:11,214人	会議室使用延べ人数:10,800人	8,235	継続	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年度は会議室使用人数が激減したが、令和4年度は増加傾向となった。今後も積極的な運用を促進していきたい。	

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和4年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見
					令和4年度実績値	令和4年度目標値				
給食センター	子どもたちが安心して学べる	20 学校給食の充実	学校給食管理事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 安心安全でおいしい学校給食を安定的に提供できるよう衛生管理や施設設備の維持管理を行った。</li> <li>* JAなどの物資納入業者と連携し、食材の確保や価格の調整を図りながら地場産品(伊賀・三重県産)を積極的に使用した。</li> <li>* コロナ禍により、児童の施設見学、生徒の職場体験の受入れについての機会が少なくなったが、栄養教諭が各学校を訪れ給食センターの業務を紹介しながら、学校給食を通して食育授業を行った。</li> <li>* 毎月発行する「給食だより」では地元食材を紹介し、伊賀市ホームページには給食の献立盛付表を掲載するなど、家庭に学校給食について紹介した。</li> <li>* 職員の食品衛生管理意識の高揚を図るため、衛生管理講習会に参加した。</li> </ul>	給食センターの地場産(県内産・伊賀産)食材使用割合(金額ベース) 65.4%	給食センターの地場産(県内産・伊賀産)食材を使用する割合(金額ベース):65%	299,011	継続	今後も地場産品の使用割合65%以上の達成を継続し、安心安全でおいしい学校給食を安定的に提供できるよう衛生管理や施設設備の維持管理に努める。また、食育授業や「給食だより」等の情報発信により、食育の充実を図る。	

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和4年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見	
					令和4年度実績値	令和4年度目標値					
文化財課	歴史や文化遺産を守り、未来へと引き継ぐ	1	文化財の調査・指定及び活用の推進	文化財保存経費	* 文化財保護審議会(2回)、市指定有形文化財旧上野市庁舎保存活用計画策定検討委員会(1回)を開催し、文化財指定の審議や旧上野市庁舎の保存・活用の検討を行った。 * 指定文化財の調査・管理を実施した。(51件) * 指定文化財の説明看板を1基(中柘植:伊賀のカンジョウナワ行事)設置、西盛寺文化財看板(1基)の修繕を実施した。 * 文化財年報を発行(300冊)するとともに、書籍『伊賀市の文化財』を販売し、文化財の啓発に努めた。	指定文化財の調査管理:51件	指定文化財の調査管理:50件	2,179	継続	県内最多の指定文化財が所在する当市では、各種文化財の適切な保護・保存と、周知に努めている。	
				文化財施設維持管理経費 大山田郷土資料館維持管理経費	* 直営1館、指定管理4館の文化財施設を適切に維持管理し、入館者を増やすよう啓発した。	入館者数:13.02人/日	入館者数:10人/日	26,558	継続	文化財施設の周知に努めるとともに、コロナ禍の中、指定管理者である伊賀市文化都市協会と連携し、入館者を増やすよう努めた。	
				歴史的風致維持向上計画進捗管理事業	* 伊賀市歴史的風致維持向上計画に基づき、法定協議会(2回)、庁内会議(1回)を開き、歴史まちづくりを進めた。 * 重点区域の一つ、大和街道島ヶ原宿について、啓発用パンフレット(1000部)の印刷と街道案内看板(1基)を設置した。	計画進捗率:42%	計画進捗率:45%	1,081	継続	重点区域における個別事業について、庁内関係各課と連携し、進捗を図ることができた。	
				伊賀市文化財保存活用地域計画作成事業	* 庁内検討会議(3回)及び協議会(3回)の開催、中間案のパブリックコメントの実施により、文化財保存活用地域計画最終案を作成した。	計画進捗率:90%	計画進捗率:80%	246	継続	庁内会議・協議会を開催して意見を聴取し、計画作成に向けて進捗した。	
		2・3	2 3 有民形俗文化財の保護・保存	文化財保存事業	* 国重要無形民俗文化財 上野天神祭のダンジリ行事の民俗文化財伝承・活用等事業及び同行事の保存管理事業を指導・助言・監督した。	事業進捗率:33%	事業進捗率:33%	2,500	継続	事業主体である上野文化美術保存会と連携し、適切に修理事業を進めた。	
					* 県指定文化財春日神社拝殿の解体修理事業(組立工事・補修工事)を助言・指導・監督した。	工事進捗率:100%	工事進捗率:100%	7,740	完了	事業主体である春日神社と連携し、適切に修理事業を進めた。	
					* 国重要文化財観音寺本堂・楼門の防災・耐震対策重点強化(防災施設等)事業を助言・指導・監督した。	工事進捗率:100%	工事進捗率:100%	1,196	完了	事業主体である観音寺と連携し、適切に防災施設整備事業を進めた。	

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和4年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見
					令和4年度実績値	令和4年度目標値				
文化財課	歴史や文化遺産を守り、未来へと引き継ぐ	4	の記念物・(史跡・保存跡・名勝天然記念物)	国史跡伊賀国庁跡保存整備事業	* 史跡公園としての整備を図るため、史跡伊賀国庁跡保存整備事業指導委員会(2回)を開催し、指導・助言を得ながら保存整備工事を実施した。	史跡整備 進捗率:62%	史跡整備 進捗率:60%	58,578	継続	環境整備及び整備工事を予定通り実施できた。
				文化財保存経費	* 国史跡上野城の高石垣で定点測量を実施し、高さや位置の変化を観察した。	測量実施地点数:8 地点	測量実施地点数:8 地点	251	継続	石垣崩落の危険性を把握できるよう努めた。
					* 伊賀国庁跡、伊賀国分寺跡、御墓山古墳、史跡上野城跡の草刈り等を行い環境整備に努めた。 * 県指定天然記念物ノハナショウブ群落管理業務を実施した。 * 国特別天然記念物オオサンショウウオの保護に努めた。	環境整備面積:延 150,488㎡ 保護件数:3件	環境整備面積:延 75,000㎡ 保護件数:5件	5,986	継続	国史跡の環境整備に努め、天然記念物の保護活動を適宜行った。
		5	用埋蔵文化財の保護と活用	民間等受託発掘調査経費	* 対象となる民間・公共の開発事業に対し協議を進め、適宜試掘調査・立会調査を行った。	発掘調査件数:0件 試掘調査件数:2件 立会調査件数:26 件	発掘調査件数:1件 試掘調査件数:5件 立会調査件数:10 件	0	継続	開発事業に対し、埋蔵文化財包蔵地の照会を行い、遺跡地に該当する場合、調査を進め文化財保護に努めた。
		6	存る文化及び資料の活用	歴史資料保存管理経費	* 市民からの依頼で歴史資料17件を調査、収集し、目録を15件作成した。 * 『広報いが市』に「伊賀の歴史余話」(6回)を掲載した。 * 受贈した歴史資料を用いて本庁舎や上野図書館で企画展示を行い、市公式YouTubeチャンネルに資料映像を公開した。 * 収集・保管する歴史資料について93件の利用申請があり、資料に対するレファレンスや複写資料の提供を行った。	目録作成件数:15 件	目録作成件数:10 件	867	継続	市民から不時依頼のある歴史資料の調査を適宜行った。また、伊賀の歴史的魅力を発信できるよう努めた。

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和4年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見
					令和4年度実績値	令和4年度目標値				
上野図書館	生涯を通じ、生きがいを持ち活躍できる	1	市民の学習活動の支援	<p>図書館管理経費 図書室管理運営経費 図書館の利用促進</p> <p>* 市民の生涯学習の場として、蔵書や資料の充実、提供に努めた。</p> <p>* 「夜のとしよかん探検」事業や小学校の施設見学などを通じて、図書館と本を身近に感じてもらい、読書に親しむ機会づくりを行った。</p> <p>* 岸宏子氏生誕100周年記念事業や元永定正氏生誕100周年記念事業と連携した中での作品特設コーナーの設置や、忍者月間における「忍者図書館」と題した忍者関連図書特集コーナーの設置や企画展示などの実施により利用促進に繋がった。</p>	貸出利用者数 計76,155人	貸出利用者数 計79,500人	97,525	充実	<p>コロナ禍による臨時休館はなく、入館者数も増加しているが、コロナ禍前の水準には至らなかった。</p> <p>生涯学習の場としての役割を果たすため、引き続き利用促進を図るとともに、利便性の向上に繋がるサービスの提供を進める。</p>	
					上野: 63,613人	上野: 67,000人	85,671			
					いがまち: 2,954	いがまち: 2,800人	3,703			
					島ヶ原: 570人	島ヶ原: 400人	351			
					阿山: 2,164人	阿山: 2,500人	2,832			
					大山田: 2,777人	大山田: 2,800人	4,341			
					青山: 4,077人	青山: 4,000人	627			
		2	利用者サービスの充実	<p>図書の貸出</p> <p>* 広報いがや文字放送、図書館(室)だよりで、新着図書等の紹介、催し物等開催の情報発信を行い、利用促進に繋がった。</p> <p>* 図書館・図書室間の配送サービスや三重県立図書館等との相互貸借により利便性の向上を行った。</p> <p>* 地域の特性を活かした図書館(室)運営を行い、身近な図書室ならではの読書活動推進に取り組んだ。</p> <p>* 校長会などを通じて団体貸出のPRを行うとともに、市内小中学校へのセット文庫の定期配送貸出を行い、学校図書館との連携・支援を行った。</p> <p>* 上野点字図書館と連携し、活字での読書が困難な方への録音図書の取次貸出等に取り組んだ。</p>	貸出冊数計 289,325冊 (内児童書 131,031冊)	貸出冊数計 303,800冊 (内児童書 129,100冊)		充実	<p>コロナ禍による臨時休館はなく、入館者数も増加しているが、コロナ禍前の水準には至らなかった。</p> <p>配送サービスや相互貸借の利用方法についての更なる周知が必要である。</p> <p>学校教育との関わりにおいては、セット文庫の定期配送だけでなく、学校図書館との連携を進める必要がある。</p>	
					上野: 245,356冊 (内児童書106,142)	上野: 261,000冊 (内児童書107,000冊)				
					いがまち: 9,627冊 (内児童書5,296冊)	いがまち: 10,000冊 (内児童書5,600冊)				
					島ヶ原: 1,164冊 (内児童書599冊)	島ヶ原: 800冊 (内児童書400冊)				
					阿山: 8,195冊 (内児童書4,506冊)	阿山: 10,000冊 (内児童書5,500冊)				
					大山田: 10,056冊 (内児童書6,684冊)	大山田: 11,000冊 (内児童書5,600冊)				
					青山: 14,927冊 (内児童書7,804冊)	青山: 11,000冊 (内児童書5,000冊)				
		<p>図書配送サービス</p> <p>* 週3回の配送サービスの実施により、利便性の向上に繋がった。</p> <p>* 上野図書館の準新刊など蔵書の一部を各図書室に配置し、利用促進に取り組んだ。</p> <p>* 市内小・中学校へのセット文庫の定期配送貸出を行い、学校図書館の蔵書とは違った本を届けることで本に興味を持ってもらうなど、児童・生徒の読書活動の普及に取り組んだ。</p>	配送書籍数計冊23,502冊	配送書籍数計冊22,400冊		充実	<p>配送サービスを継続する必要がある。</p> <p>上野図書館資料の各図書室への配置等、上野図書館と各図書室の連携を進め、図書館全体の利用促進に取り組む必要がある。</p>			
			上野: 9,104冊	上野: 8,000冊						
			いがまち: 3,380冊	いがまち: 4,000冊						
			島ヶ原: 850冊	島ヶ原: 800冊						
			阿山: 2,832冊	阿山: 3,100冊						
			大山田: 3,273冊	大山田: 4,000冊						
			青山: 4,063冊	青山: 2,500冊						

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和4年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見
					令和4年度実績値	令和4年度目標値				
上野図書館	生涯を通じ、生きがいを持ち活躍できる	3	読書聞かせ会等の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 各読書聞かせボランティア団体の協力による絵本や紙芝居の読書聞かせ会の実施により、子どもが本に親しむ機会づくりに繋がった。</li> <li>* 小学校でのブックトーク等の実施により児童の読書推進の環境づくりに努めた。</li> <li>* 多言語でのおはなし会を開催し、さまざまな国の言葉で絵本を聞き、楽しむ中で、異文化理解やコミュニケーション能力を養う機会づくりに繋がった。</li> </ul>	開催数計 111回	開催数計 142回		充実	感染症対策を行いながら事業を実施することができた。今後も回数を重ね、子ども達が本に親しむ機会の創出を行う必要がある。読書聞かせ会等の開催情報に関し、HPや広報紙だけでなくSNSを活用した周知方法の導入を目指す。読書聞かせボランティア団体が1団体設立したが、引き続き担い手育成を支援する必要がある。	
					上野:56回	上野:60回				
					いがまち:7回	いがまち:25回				
					島ヶ原:0回	島ヶ原:21回				
					阿山:12回	阿山:12回				
					大山田:24回	大山田:12回				
					青山:12回	青山:12回				
			特集コーナーの設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「読書週間」、「差別をなくす強調月間」、などの取り組み期間や「世界自閉症デー」や時事譲歩などに関連する特集コーナーを設置し、利用促進に繋がった。</li> <li>* 上野図書館が所蔵する貴重資料の企画展示を行い、郷土の魅力や歴史の周知に努めた。</li> </ul>	特集実施数計 138回	特集実施数計 119回		充実	各種週間や時事情報等に沿った特集コーナーや所蔵資料の魅力発信する特集コーナーの設置だけでなく他課との連携による展示などを行い、市民の読書への関心を高めるとともに魅力ある図書館運営を行う必要がある。	
					上野:55回	上野:50回				
	いがまち:12回	いがまち:12回								
	島ヶ原:5回	島ヶ原:13回								
	阿山:34回	阿山:12回								
読書感想文コンクールによる読書活動啓発事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 第18回読書感想文コンクールを実施し、読書活動の推進を行った。</li> </ul>	応募数:167点	応募数:330点		充実	読書を通じて得た感想や想いを自分のことばで表現する大切な取り組みであり、本に親しむ機会創出の観点からも継続して実施する必要がある。				
4	資料の収集と活用の推進	資料の収集と活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 市民からのリクエスト等を参考に司書が選書した図書を購入し、資料の充実に努めた。</li> <li>* 上野図書館の所蔵資料を含む伊賀市にある貴重資料の一部をデジタル化しインターネット上に公開している「デジタルミュージアム 秘蔵の国 伊賀」の郷土教育への更なる活用を進めるため、郷土教育担当教諭を対象とした研修会を実施し、利用促進に取り組んだ。</li> <li>* 保存期限を過ぎた雑誌や、不用になった図書をリユースフェアで市民に還元するとともに、一定期間を経た各図書室のリユース本の図書室間の交換配置を行い、利用促進に取り組んだ。</li> </ul>	図書購入冊数計 5,031冊	図書購入冊数計 5,420冊		充実	リクエスト内容や時事情報を把握し、全館を通じた効果的な資料収集を行う必要がある。デジタルアーカイブの利活用を拡げるため、学校教育との連携を進める必要がある。		
				上野:4,800冊	上野:5,000冊					
				いがまち:52冊	いがまち:100冊					
				島ヶ原:15冊	島ヶ原:20冊					
				阿山:49冊	阿山:100冊					
				大山田:59冊	大山田:100冊					
				青山:56冊	青山:100冊					

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和4年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見
					令和4年度実績値	令和4年度目標値				
生涯学習課・公民館	生涯を通じ、生きがいを持ち活動できる	1 社会教育の推進	生涯学習推進事業	1月に20歳対象の成人式を中学校区別(9会場)で開催しました。 また、令和4年4月の民法改正により成年年齢が引き下げられたため、3月に19歳対象の成人式を中学校別(9会場)に開催しました。	参加率:76.5%(1月) 参加率:84.2%(3月)	参加率:80%(1月) 参加率:80%(3月)	2,127	継続	民法改正により令和5年度以降は対象者を18歳に変更して1会場で開催します。	
		2 生涯学習推進体制の充実		*生涯学習支援員を対象とした研修や交流会を開催しました。 *他地域の活動事例を通して情報共有を図るとともに、情報交換を行うため住民自治協議会等研修会を開催しました。	参加者数:440名 (うちオンライン参加者数:120名)	参加者数:450名	155	継続	生涯学習支援員を各地区市民センターに配置し住民自治協議会と連携しながら事業を実施することとしており、支援員の更なるスキルアップを目指します。	
		6 学習の機会や場の提供を図り、活動内容の充実		①通年講座(悠々セミナー)併せて同時配信によるオンライン講座を開催しました。 ②初めての講師サポート事業 ③親子体験講座 ④干支の春展 ⑤定住自立圏連携事業 ⑥読み聞かせボランティア入門講座	①開催回数:8回 参加者数:354人 ②開催回数:9回 参加者数:51人 ③開催回数:4回 参加者数:98人 ④参加者数:229人 ⑤参加者数:64人 ⑥開催回数:2回 参加者数:82人	①開催回数:8回 参加者数:480人 ②開催回数:10回 参加者数:150人 ③開催回数:4回 参加者数:80人 ④参加者数:300人 ⑤参加者数:50人 ⑥開催回数:2回 参加者数:120人	83	継続	中央公民館事業は学習の機会や場を提供するため継続した取組が必要であり、社会情勢等を勘案してニーズに応じた事業を実施します。	
	部落差別をなくす	3 人権尊重の精神を培い、主体的に行動のできる人づくり	隣保館・児童館・教育集会所事業	*伊賀市教育集会所小学生交流事業「みんなよっといで！」を開催しました。 *伊賀市教育集会所高校生・青年人権学習交流会を実施した。 *伊賀市教育集会所保護者交流会を実施しました。	参加者数:181名	参加者数:250名	527	継続	地域を越えて差別を許さない・差別をなくす仲間の輪を構築するために、差別がある限り継続する必要がある。	
		7 人権同和教育の推進	同和教育研究推進事業	*関係機関と連絡調整を図り、人権同和教育研究・推進活動を行いました。 *講演会、研修会、研究大会を開催しました。	参加者数:7416人	参加者数:8,500人	7,222	継続	部落差別をはじめとする個別の人権課題解決に向けて、地域住民が自ら学ぶ機会として継続して行う必要がある。	
				(中央公民館) *人権パネル展示 *人権同和教育問題学習講座	開催回数:2回 参加者数:不明 開催回数:3回 参加者数:232人	開催回数:2回 参加者数:1500人 開催回数:3回 参加者数:150人	143	継続	家庭・地域と連携し、部落差別をはじめとするあらゆる差別の解消を目指す人権・同和教育を推進する必要がある。	

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和4年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見	
					令和4年度実績値	令和4年度目標値					
				(いがまち) * 学校人権同和教育研究会活動補助等  * 小中学校交流会事業実施	①12部会の開催回数:52回  ②開催回数:小学校4.5.6年中学校1.2.3年各1回 参加者数:458人	12部会の開催回数:60回  開催回数:小学校3.4.5.6年 中学校1.2.3年各1回 参加者数:480人	226	継続	家庭・地域と連携し、部落差別をはじめとするあらゆる差別の解消を目指す人権・同和教育を推進する必要がある。		
生涯学習課・公民館	子どもや若者が、健やかに成長する	4	青少年の創造的、主体的活動の進展と健全な育成活動の推進	青少年健全育成事業	* 第15回「輝け！いがっ子フォトコンテスト」を実施し、輝け！いがっ子憲章を周知・啓発しました。 * 子どもたちに読書に親しむ機会を提供するとともに、家庭での読書活動の大切さについて啓発し、子どもの読書活動を推進しました。 * 伊賀市青少年ネットワークづくり研修会・伊賀地区子どもわかもの育成支援のための支部研修会等を開催しました。 * 青少年健全育成推進大会を開催しました。 * 伊賀市青少年育成市民会議の活動を補助し、伊賀市全域を対象とした事業および各地区の特色を生かした事業の実施を支援しました。 * 青少年非行防止活動強化月間(7月)、子ども・若者育成支援強調月間(11月)、未成年者喫煙防止キャンペーンとして青少年健全育成市内一斉活動を実施しました。	107人	青少年健全育成推進大会参加者数:150人	1,941	改善	伊賀市として一本化した取り組みの充実のため、伊賀市青少年育成市民会議の組織改編を支援しました。それにより、伊賀市として一体化した事業を実施するとともに、各地域において特色ある事業の実施ができました。今後も各地域での取り組みを尊重するとともに、関係機関・団体と連携して伊賀市全体としての取り組みを充実させるとともに、青少年健全育成に係る指導者や担い手の確保に努めます。	
					* 上野児童福祉会連合会に委託し、遊び文化・生活文化・自然環境を考えること等を大切に、よりよい子ども社会構築のための事業を実施しました。	開催回数:5回 参加者数:560人	開催回数:7回 参加者数:500人	1,500	改善	新型コロナウイルス感染症により中止となった事業もありましたが、自然体験や異年齢交流をとおして、市内の子どもたちに体験と学びの機会を提供することができました。今後も、市内全域を対象とした青少年健全育成事業として継続して実施します。	
					* 上野児童福祉会連合会に委託し、郷土の産業や伝統文化・環境など、さまざまな体験を通して、「誇れるふるさと」を学習するための事業を実施しました。	開催回数:7回 参加者数:176人	開催回数:7回 参加者数:140人	100	改善	市内の子どもたちに、体験をとおしてふるさとを学び、人とつながる機会の提供ができました。今後も子どもたちへの交流や学びの機会の提供に努めます。	

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和4年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見
					令和4年度実績値	令和4年度目標値				
				<ul style="list-style-type: none"> <li>* 伊賀市内で4つの放課後子ども教室の支援を行いました。</li> <li>* 伊賀市放課後子どもプラン施策検討委員会を開催しました。</li> </ul>	8人	教室1回あたりの平均利用児童数(全教室計):8人	2,158	継続	<p>コロナ感染対策を充分に取りながら活動して頂いた。</p> <p>放課後子どもプラン施策検討委員会においては、放課後児童クラブとの一体型や連携型の実施について協議頂いた。</p> <p>開設希望の地域が出てきた場合、引き続き支援を行う。</p>	
				<ul style="list-style-type: none"> <li>* 街頭補導活動(随時補導・特別補導・協助手補導)を実施するとともに、青少年育成市民会議や各地域と連携した非行防止パトロールを実施しました。</li> <li>* 電話および面談による青少年相談活動を実施するとともに、その周知に努めました。</li> <li>* 環境浄化活動とし、コンビニエンスストア・書店・小売店等に、低俗な広告物・有害玩具・有害図書・不良環境の排除等への協力を依頼しました。</li> </ul>	巡回補導活動回数:313回	巡回補導活動回数:310回	608	継続	<p>関係機関や関係団体と連携し、計画的な街頭補導活動と環境浄化活動を実施し、状況に合わせて補導内容の検討・改善を行いました。今度も活動の充実を図るとともに、青少年相談窓口の周知に努めます。</p>	

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和4年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見
					令和4年度実績値	令和4年度目標値				
教育集会所	部落差別をなくす	9	隣保館・児童館・教育集会所事業	* 地域ぐるみの同和教育総合実践活動事業 (崇広中学校区ヒューマンフェスタ)	(八幡町教育集会所) 開催回数:0回 参加者数:0人	(八幡町教育集会所) 開催回数:1回 参加者数:2,000人	10	継続	新型コロナウイルス感染症拡大により中止したが、本事業目的を推進するため、崇広校区の保・小・中それぞれの人権同和教育の取り組みを充実させていく。	
				* 上野南中学校区小学校3・4・5・6年生人権学習会	(下郡教育集会所) 開催回数:10回 参加者数137人	(下郡教育集会所) 開催回数:10回 参加者数200人	0	継続	それぞれの学級における課題などを事前に聞き取ることから始め、その学級が抱える問題点の解決につながる学習を行った。	
				* 人権同和教育相談事業 保護者や地域住民、保育士・教職員等からの人権同和教育や子育て相談等の機会として開設し、対応した。	(寺田教育集会所) 開催回数:11回 参加者数:11人	(寺田教育集会所) 開催回数:11回 参加者数:10人	0	継続	今後も、利用者とのつながりや関係を深め、相談しやすい雰囲気や環境づくりを進めていく。	
				* 『中瀬ふれあい夏祭り』『人権トーク&コンサート』 『中瀬ふれあい夏祭り』の場で、市民への人権同和教育並びに人権啓発の推進を目的として、「人権トーク&コンサート」の開催を計画していたが、「新型コロナウイルス感染症」対策として、『夏祭り』の開催が『中止』された。 * フィールドワーク 教職員や保育士、他地域等からの要望に応じて、歴史資料等を用いて差別の実態や部落解放運動の歴史を学ぶとともに、フィールドワークを実施した。差別の厳しさや行動を起こす大切さを五感で学ぶ中での人権意識の高揚をめざした。 * 小・中人権同和教育講演会 中瀬小学校PTA・城東中学校PTAと共催し、児童・生徒・教職員・保護者・地域住民等を対象にした、人権コンサート(中瀬小学校)・人権講演会(城東中学校)を開催した。	(寺田教育集会所) 開催回数:8回 参加者数:689人 (『中瀬ふれあい夏祭り』は開催『中止』)	(寺田教育集会所) 開催回数:6回 参加者数:1,200人	40	継続	地域住民の交流を図りながら、人権同和教育並びに人権啓発を推進することができたと考える。今後も、継続して実施していく。	
				* 城東中学校区小学校3・6年生人権学習会 * 城東中学校1年生人権学習会 城東中学校区小学校3・6年生、城東中学校1年生の人権・部落問題学習の中での教育集会所・市民館見学に対応し、人権学習会を実施した。	(寺田教育集会所) 開催回数:11回 参加者数:695人	(寺田教育集会所) 開催回数:11回 参加者数:500人	0	継続	担当教職員との事前の打ち合わせにより、参加児童・生徒の現状等を的確に把握し、より効果的なものになるよう、内容等も工夫しながら、実施していく。	

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和4年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見
					令和4年度実績値	令和4年度目標値				
教育集会所	部落差別をなくす	9	隣保館・児童館・教育集会所事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 寺田教育を考える母(保護者)の会 部落差別に負けない、部落差別を許さない子どもの育成をめざし、保護者同士のつながりを深めるため、保育士・教職員等を交えての懇談会や人権・部落問題学習会を実施した。また、『寺田文化祭』等の教育集会所・市民館事業に参画した。</li> <li>* 保小中高連絡会 保・小・中・高の保育士・教職員等と寺田教育集会所が、地区園児・児童・生徒の現状・課題等を共有し、共通認識を持つため、月1回程度、連絡会を開催した。</li> <li>* 中瀬城東保育園・支部・教集三者懇談会</li> <li>* 中瀬小学校・支部・教集三者懇談会</li> <li>* 城東中学校・支部・教集三者懇談会</li> </ul> 地域内の保育園・小学校・中学校と部落解放同盟寺田支部、寺田教育集会所の三者が、地区園児・児童・生徒の現状・課題等を共有し、共通認識を持つため、それぞれ、年度当初と年度末の2回、懇談会を開催した。	(寺田教育集会所) 開催回数: 28回 参加者数: 455人	(寺田教育集会所) 開催回数: 30回 参加者数: 400人	0	継続	保護者、住民、保育士・教職員等との交流を図りながら、人権同和教育並びに人権啓発を推進することができたと考える。今後も、継続して実施していく。	
				<ul style="list-style-type: none"> <li>* 伊賀地区校区連絡会議</li> </ul>	(まえばわ教育集会所) 開催回数: 9回 参加者数: 109人	(まえばわ教育集会所) 開催回数: 10回 参加者数: 130人	0	継続	個々の子ども達の学力状況や家庭での状況を共有する中で、それぞれが連携した取り組みにつなげることができた。	
				<ul style="list-style-type: none"> <li>* 大山田保育園解放保育懇談会</li> <li>* 大山田小学校教育懇談会</li> <li>* 大山田中学校教育懇談会</li> </ul>	(奥馬野教育集会所) 開催回数: 4回 参加者数: 104人	(奥馬野教育集会所) 開催回数: 3回 参加者数: 95人	0	継続	子どもたちの実態をふまえ、幼稚園、小中学校で懇談会を実施し、解放保育・人権教育を充実した。	
				<ul style="list-style-type: none"> <li>* 青山学校同和教育推進委員会(事務局会)</li> </ul>	(老川教育集会所) 開催数: 年9回 延べ参加者数: 90人	(老川教育集会所) 開催数: 年11回 延べ参加者数: 110人	9	継続	管内の保幼小中の児童生徒の状況把握、校種間・関係機関との連携ができており、今後も必要な取り組みである。	
				<ul style="list-style-type: none"> <li>* 保小中同和教育実践交流会(保幼小中交流会、全体研修会、新転入教職員研修会、夏期研修会)</li> </ul>	(老川教育集会所) 開催数: 年8回 延べ参加者数: 182人	(老川教育集会所) 開催数: 年9回 延べ参加者数: 180人	6	継続	管内の保幼小中の教職員の人権意識の向上の一助となり、人権教育カリキュラムとして実施するために不可欠である。	
				<ul style="list-style-type: none"> <li>* 推進委員会(実践集録検討会議)</li> <li>* 実践報告書(実践集録)発刊</li> <li>* 推進委員会だより(かわせみ)発行</li> </ul>	(老川教育集会所) 開催数: 年1回 参加者数: 7人 発行: 年1回 発行: 年3回	(老川教育集会所) 開催数: 年1回、参加者数: 5人 発刊: 年1回 発行: 年3回	297	継続	管内地域住民に学校人権同和教育の周知の一助となっており、継続する必要がある。	

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和4年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見
					令和4年度実績値	令和4年度目標値				
教育集会所	部落差別をなくす	9	人権同和教育の推進	隣保館・児童館・教育集会所事業  * 生活講座、識字教室	(八幡町教育集会所)識字教室 開催回数:47回 参加者数:177人	(八幡町教育集会所)識字教室 開催回数:46回 参加者数:280人	111	継続	以前から引き続き参加する方が多く、奪われた文字や人間の尊厳を取り戻すため、また部落差別に負けない生き方を後世に伝えることに大きく寄与している。 引き続き、学ぶ機会が必要な方に周知を行う。	
					(まえがわ教育集会所) 開催回数:99回 参加者数:1,030人	(まえがわ教育集会所) 開催回数:90回 参加者数:1,000人	681	継続	識字カレンダーを作成し、情報発信ができた。また、講師が受講生の生きざまから学ぶことにより差別をなくすための主体者となった。	
					(奥馬野教育集会所) 開催回数:22回 参加者数:190人	(奥馬野教育集会所) 開催回数:37回 参加者数:270人	155	継続	* 部落差別によって奪われた文字や文化・生活を取り戻すため、文字を中心とした学習活動を行った。また、差別の不合理性を伝え差別をなくすための啓発活動を共同作品を通じて行った。	
					(老川教育集会所) ・生活講座 開催数:年25回 延べ参加者数 145人 ・識字教室 開催数:年23回 延べ参加者数: 94人 ・パソコン教室 開催数:年23回 延べ参加者数: 102人	(老川教育集会所) ・生活講座 開催数:年20回 延べ参加者数 110人 ・識字教室 開催数:年20回 延べ参加者数: 110人 ・パソコン教室 開催数:年20回 延べ参加者数: 110人	31	継続	住民の生きがいのある生活につながっている。また、教員が差別の現実を知る機会となっており、継続する必要がある。	

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和4年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見								
					令和4年度実績値	令和4年度目標値												
教育集会所	部落差別をなくす	9	人権同和教育の推進	隣保館・児童館・教育集会所事業  * 小学生地区学習会 地域の人々のくらしや歴史等を学び、差別を見抜き、なくしていくことのできる、人権感覚の豊かな子どもの育成を図るとともに、差別をなくす仲間づくりを進めた。 また、小学校の長期休業期間中には、学力保障や差別をなくす仲間づくりを進めるため、子ども教室を開催し、学習会や各種体験教室等を実施した。	(八幡町教育集会所)小学生地区学習会 開催回数: 24回 参加者数: 658人	(八幡町教育集会所)小学生地区学習会 開催回数: 32回 参加者数: 900人	15	継続	新型コロナウイルス感染症拡大により、一部中止としたが、開催回では一定の参加者を得ることができた。事業では、差別をなくす実践者等との出会いや学習を通じて、自分の町を誇りに思い、自分自身を肯定的に受け止め、自己実現できる差別に負けない力の獲得をめざしている。									
					(寺田教育集会所)小学生地区学習会 開催回数: 32回 参加者数: 356人 (寺田教科学習会) 開催回数: 28回 参加者数: 122人 (寺田小学生春・夏・冬休み子ども教室) 開催回数: 18回 参加者数: 54人	(寺田教育集会所)小学生地区学習会 開催回数: 30回 参加者数: 420人 (寺田教科学習会) 開催回数: 30回 参加者数: 180人 (寺田小学生春・夏・冬休み子ども教室) 開催回数: 65回 参加者数: 390人					98	継続	ふれあい活動や各種体験教室、中学生・高校生・青年との交流等の活動を通して、学力保障とともに、生活体験を増やす活動を実施した。少子化の状況があるが、今後も、差別をなくしていく仲間として団結していくことができるよう、継続して、事業を計画、実施していく必要がある。					
					(下郡教育集会所)小学生地区学習会 開催回数: 30回 参加者数: 426人	(下郡教育集会所)小学生地区学習会 開催回数: 30回 参加者数: 350人									22	継続	小学校区内の希望者を募り学習会を開催しており、場の提供ができた。	
					(まえばわ教育集会所)小学生地区学習会 開催回数: 32回 参加者数: 952人	(まえばわ教育集会所)小学生地区学習会 開催回数: 40回 参加者数: 720人												

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和4年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見
					令和4年度実績値	令和4年度目標値				
					(奥馬野教育集会所)小学生地区学習会 開催回数:23回 参加者数:840人 (ライトピア子ども会) 開催回数:6回 参加者数:23人	(奥馬野教育集会所)小学生地区学習会 開催回数:30回 参加者数:800人 (ライトピア子ども会) 開催回数:10回 参加者数:120人	634	継続	【小学校地区学習会】 * 差別を許さない確かな認識や豊かな人権感覚を持った仲間づくりを進めた。また、未来を切り開くための基礎学力の向上に取り組むことができた。  【ライトピア解放学習会】 * 夏休み・冬休みには学習会を実施し学力の補充を行った。 地域のつながりを深め、児童と保護者が参加できる体験活動を通じて仲間づくりや交流を進めることができた。	

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和4年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見			
					令和4年度実績値	令和4年度目標値							
教育集会所	部落差別をなくす	9	隣保館・児童館・教育集会所事業	* 中学生地区学習会、高校生・青年友の会 地域の人々のくらしや歴史等を学び、差別を見抜き、なくしていくことのできる、人権感覚の豊かな子どもの育成を図るとともに、差別をなくす仲間づくりを進めた。	(八幡町教育集会所)中学生地区学習会 開催回数:35回 参加者数:315人	(八幡町教育集会所)中学生地区学習会 開催回数:36回 参加者数:440人	82	継続	新型コロナウイルス感染症拡大のため、参加者数は減少した。事業では、差別をなくす実践者等との出会いや学習を通じて、自分の町を誇りに思い、自分自身を肯定的に受け止め、自己実現できる差別に負けない力の獲得をめざしている。令和5年度は、参加者数等、課題を確認しながら進めていこうと考えている。				
					(下郡教育集会所)中学生地区学習会 開催回数:16回 参加者数:134人 (下郡高校生友の会) 開催回数:12回 参加者数:0人	(下郡教育集会所) 開催回数:30回 参加者数:330人 (下郡高校生友の会) 開催回数:12回 参加者数:36人					25	継続	・少子化の状況の中、広く参加者を募り、実施することで新たな交流と学習ができた。 ・友の会では、高校生・社会人の参加が増えるよう関係者への案内を継続する。
					(寺田教育集会所)中学生地区学習会 開催回数:37回 参加者数:401人 (寺田教科学習会) 開催回数:37回 参加者数:350人 (寺田高校生友の会) 開催回数:11回 参加者数:62人 (寺田小中高合同地区学習会) 開催回数:3回 参加者数:64人	(寺田教育集会所)中学生地区学習会 開催回数:35回 参加者数:420人 (寺田教科学習会) 開催回数:40回 参加者数:480人 (寺田高校生友の会) 開催回数:15回 参加者数:70人 (寺田小中高合同地区学習会) 開催回数:2回 参加者数:100人							

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和4年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見
					令和4年度実績値	令和4年度目標値				
教育集会所	部落差別をなくす	9	人権同和教育の推進	隣保館・児童館・教育集会所事業	(まえばわ教育集会所)中学生地区学習会 開催回数:30回 参加者数:754人 (前川・わかもの&スクラム) 開催回数:3回 参加者数:83人	(まえばわ教育集会所)中学生地区学習会 開催回数:30回 参加者数:1,000人 (前川・わかもの&スクラム) 開催回数:3回 参加者数:80人	378	継続	小学校地区学習会から積み上げた仲間づくりを深く広げるため、青年への聞き取りを通じて互いに支え合い、励まし合える仲間づくりを進めることができた。	
					(奥馬野教育集会所)中学生地区学習会 開催回数:23回 参加者数:285人 (奥馬野教育集会所)中高生学習会 開催回数:6回 参加者数:63人	(奥馬野教育集会所)中学生地区学習会 開催回数:30回 参加者数:600人 (奥馬野教育集会所)中高生学習会 開催回数:8回 参加者数:60人				
				【中学生高校生学習会】 * 夏休み・冬休み・春休みを利用して、確かな学力を身につけ進路を保障していくために、課題や復習問題に取り組む機会を提供した。 先輩や大学生等に講師を依頼することで、勉強だけではなく将来のキャリアデザインを描くアドバイスも行うことができた。						

所属	施策	努力目標	取組事業名	事業概要 (令和4年度の取組内容)	指標		決算額 (千円)	方向性	内部評価 (方向性)	評価委員の意見
					令和4年度実績値	令和4年度目標値				
教育集会所	部落差別をなくす	9	隣保館・児童館・教育集会所事業	* 人権教育講演会、学習会	(八幡町教育集会所) 開催回数: 3回 参加者数: 90人	(八幡町教育集会所) 開催回数: 2回 参加者数: 100人	40	継続	講師の選定が重要であるので、来年度以降もニーズ等を考慮し継続して開催していく。	
					(下郡教育集会所) 人権と平和学習会 :未実施 (依那古草の根会議) 開催回数: 1回 参加者数: 44人 (上野南中学校区学習会) 開催回数: 1回 参加者数: 40人 (高齢者人権教養講座) 開催回数: 0回 参加者数: 0人	(下郡教育集会所) 人権と平和学習会 開催回数: 2回 参加者数: 130人 (依那古草の根会議) 開催回数: 1回 参加者数: 100人 (上野南中学校区学習会) 開催回数: 1回 参加者数: 70人 (高齢者人権教養講座) 開催回数: 1回 参加者数: 60人	0	継続	・人権と平和学習会については、コロナ禍のため中止となった。 ・草の根会議では、コロナ禍の中で役員に限定し講演会を開催した。 ・上野南中学校区学習会では、推進委員会・実践交流会を実施し、館の役割や地域の取り組みなどを学習した。 ・高齢者人権教養講座は、コロナ禍で中止となった。	
					(まえがわ教育集会所) 未実施	(まえがわ教育集会所) 開催回数: 1回(特別解放講座) 参加者数: 100人	0	継続	新型コロナウイルス感染症対策のため、事業を実施しなかった。	
					(老川教育集会所) 開催数: 年2回 延べ参加者数: 37人	(老川教育集会所) 開催数: 年3回 延べ参加者数: 200人	60	継続	人権同和教育推進の一助となっており、継続の必要がある。	